

9月4日の日本株の急落について

株価の戻りはいったん一巡。半導体・AI関連株の不透明感強まる

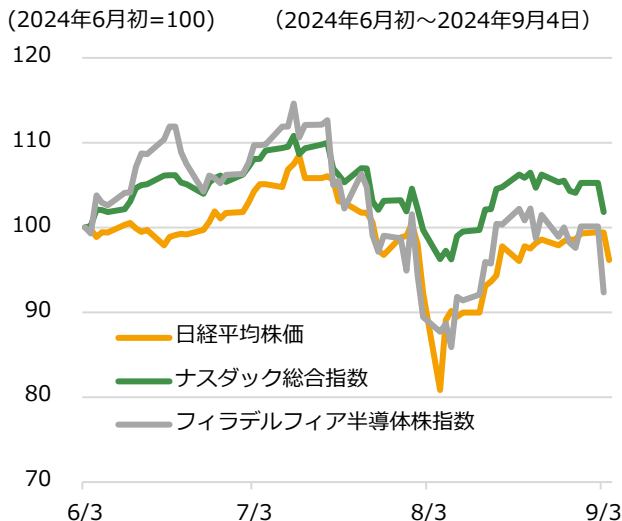
2024年9月4日

米国ISM製造業景況感指数の悪化や米エヌビディア株の急落を嫌気

9月4日の株式市場は、日経平均株価が▲1,639円（▲4.2%）安、TOPIXが▲99.8ポイント（▲3.7%）安と急落しました。3日発表の8月米ISM製造業景況感指数が市場予想を下回ったことから米国景気の先行き不透明感が強まり、米株安・円高米ドル安の進行が嫌気されました。また、AI向け半導体メーカー大手のエヌビディア株が3日の米国株式市場で▲9.5%と急落。8月28日の決算発表が市場の高い期待を超えられず株価は調整傾向となっていました。9月3日の引け後に米司法省から反トラスト法違反に関して文書提出命令を受けたことも嫌気されそうです。東京市場でも半導体関連株が下げを主導しました。

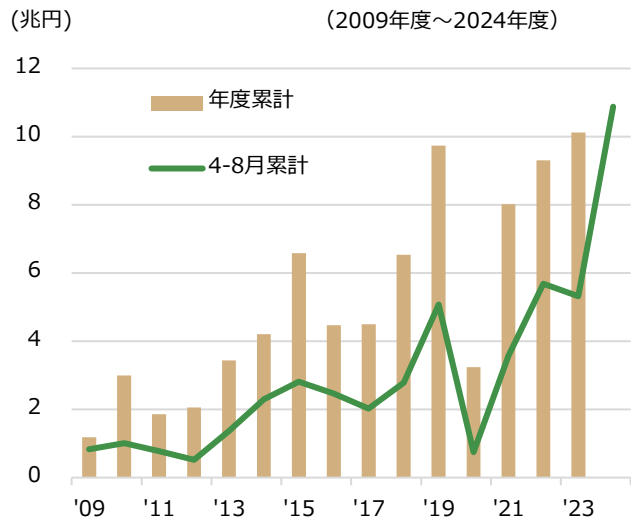
今後につきましては、米国やグローバルの景気動向に一喜一憂する展開が予想されます。中国の需要低迷など製造業は低調な状況にありますが、資源価格の下落や供給制約の解消などから世界的にコストプッシュのインフレが沈静化しており、サービス業の景況感は底堅さを保っています。8月初旬の歴史的な急落の一因となった米国の7月雇用統計の悪化は南部へのハリケーンの来襲など一時的な要因の影響が大きく、今週末発表の8月分に改善傾向が見られれば市場に安心感が広がるものと想定しています。日本株は、8月初旬の急落後は一本調子の戻り歩調で上昇し利益確定の売りが出やすい状況ですが、引き続き過去最高ペースの自社株買いなど良好な需給環境に変化はなく、総じて堅調な株価推移を想定しています。

日経平均株価と米国株価指数



※現地通貨ベース、日経平均株価以外は2024年9月3日まで
(出所) ブルームバーク

自己株式取得枠の設定金額



※年度累計は2023年まで、2024年4-8月累計は8月16日までの値
(出所) 大和証券より大和アセット作成

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡りする「投資信託説明書(交付目録見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management